



モナ・リザの肌膚

《モナ・リザ》 レントゲン写真、油彩、石膏型、ほか 協力：坂野井木工所、橋本和成、佐藤龍

渡辺晃一 展

2014
3.19 wed - 29 sat

ZEN FOTO GALLERY 企画

東京都港区六本木6-6-9ピラミデビル208号室 / 火曜日 - 土曜日 12:00~19:00 / 日・月・祝日 休廊

モナ・リザの肌膚

Exhibition of WATANABE Koichi

渡辺晃一展

料金別納郵便

レオナルド変幻

夏目漱石の『永日小品』に「モナリサ」という超短篇が収められている。男が古道具屋で「色摺の西洋の女の画」を八十銭で購入して家に持ち帰ると、細君がその「黄ばんだ女の顔」を眺めて、「気味の悪い顔です事ねえ」という。結局、男は「この縁起の悪い画」を五銭で屑屋に売り払ってしまったという話である。

世界でもっとも有名な絵画は、議論の余地なくレオナルド・ダ・ヴィンチの《モナリザ》である。ルーヴル美術館ににあるこの作品は、模写され写真に撮られて、その複製がおびただしく巷に溢れ、また研究、評論、小説等ありとあらゆる言説の対象になってきた。そのモデル捜しもさることながら、なんといってもその顔と姿の異様なインパクトのしからしめるところで、漱石のくだんの細君もいささか誇張された反応のひとつを見せたわけである。

渡辺晃一は、その《モナリザ》をみずから油彩で複製し、そのX線写真を撮り、石膏型を作るなど、さまざまな技法による「うつし」を制作する。ここで問題となっているのは、「気味の悪い顔」そのものというよりは、むしろ個々の作品の表面の質、表情、作家がまさしく「肌膚」と呼ぶところのもので、皺や亀裂などの再現をも含む特異な複製群が目の当たりにされることだろう。

ルーヴルのあの稀代の作品を「原型」とする「版」の試み。何層にも及ぶこの意識的・方法論的な複製化の作業の前で、レオナルドは変幻し、ベンヤミンのいう「アウラ」は、むしろ逆にますます増大の方向に向かっているといっているのではあるまいか。

谷川 渥(美学者)



ZEN FOTO GALLERY 2014年3月19日(水)~29日(土)

〒106-0032

東京都港区六本木6-6-9ピラミデビル208号室

Piramide Building, 2F, 6-6-9 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032 Japan

CONTACT

Tel: 080-4652-7058 / amanda@zen-foto.jp

<http://www.zen-foto.jp>

OPEN HOURS

火曜日 - 土曜日 12:00~19:00 日・月・祝日 休廊

Closed on Sun., Mon. & National Holidays

